

身心脱落

無学求道作成「自分が変わるために」より

道元さんが中国曹洞宗・如浄先生のもとで修行し、「身心脱落」という宗教体験で因可を頂いたことで知られている。

さてその状況を詳しく書いたものが見つかりました。

『坐禅用心記』に参ずる（東 隆真著）

P52 瑩山禅師はお釈迦さまからはじまってインド、中国、日本の祖師たちの人格から人格へ仏法が伝えられてきた様子を、門下の人たちに説きました。これが後に一冊の本になりました。（中略）

これを『伝光録』といいます。『伝光録』によると、

「道元和尚は、天童如浄和尚に学んだ。如浄和尚は、早朝坐禅のとき、みんなに示した。『参禅は、身心脱落である』と。

道元和尚は、これを聞いて忽然として大悟した。ただちに方丈に行って焼香した。

如浄和尚「焼香の意味は？」

道元和尚「はい。身心脱落しました」

如浄和尚「身心脱落。脱落身心」

道元和尚「これは暫時の技量です。如浄和尚よみだりに私を認めないで下さい」

如浄和尚「私は、みだりに君を認めたのではない」

道元和尚「みだりに認めたのではないとはどのようなことですか」

如浄和尚「脱落身心」

道元和尚は、礼拝した。

如浄和尚は「脱落、脱落」と言った。

ときに、福建省出身の広平という侍者が「外国人で、このような宗教体験をえたのは容易なことではない」と評した。

如浄和尚は、『これまで、どれほど多くの人びとが、私の拳をくらってきたことだろう。道元和尚の身心脱落のさまは、まことに悠々としており、実に鮮やかである』と言った。」（著者注「」は文頭より始まる）

私の意見

この場面は1223年頃の話である慧能（～713年）の活躍された時代から500年たっている。私はこの間に坐禅指導の方法に変化がおきていたのではないかと疑う。

如浄和尚の親切な指導はかえって自然な悟りの妨げになると。

道元和尚「これは暫時の技量です。如浄和尚よみだりに私を認めないで下さい」

ここに道元和尚の何やら頼りなげな気持ちが出ていると思うのです。私はそのような場合本人の気がすむまで修行させてあげたらいいと思うのです。

如浄和尚の認定と指導で押し込まれたと言うべきでしょう。

つぎもお節介な指導です。

如浄和尚も「これまで、どれほど多くの人びとが、私の拳をくらってきたことだろう」と言っているように

私から見ると親切すぎる指導だと思われる。

私は思うのです。お釈迦さんの修行者集団でそのような指導がなされていただろうかと。

あの慈悲深いお釈迦さんはしななかっただろうし、そのような指導は認めなかっただろうと思うのです。

頓悟禅を標榜する宗派において更に変遷したようです。

このサイトの「虚空和尚伝」の項参照。